

慶応義塾大学 森基金研究成果報告書

研究テーマ

「ドイツ・デュアルシステムの現場の実態調査
～就業困難な若者が就職できる効果的な訓練プログラム開発へ
の基礎研究の一環として～」

慶応義塾大学 大学院 政策・メディア研究科

後期博士課程

奥田美都子

(学籍番号 81449096)

ドイツ視察旅行 報告書

以下の通り、2015年3月17日～24日まで9日間、ドイツのデュアルシステム及び生産学校の視察のため、ミュンヘンとカッセルに行きまして報告します。(スケジュール表は添付の通り)

1. 在ミュンヘン日本領事館 (面会者: 領事 清水祐樹氏)

- ① ミュンヘンのあるバイエルン州は、ドイツで一番経済成長している。(添付資料「バイエルン」インフォ参照)
失業率は、バイエルン州 3.4% (ミュンヘン市は 4.8%、ドイツ全体で 6.3%) と、昨年同月と比較して 0.1%~0.2%改善している。
- ② デュアルシステムの職業訓練学校や生産学校を訪問する際は、アポが必要だが、英文メールだけでなく、電話連絡してアポを確認したほうが良いとアドバイスをいただいた。また、ミュンヘン商工会議所は、大企業中心なので、むしろ手工業会議所を訪問すると言われた。

2. ミュンヘン商工会議所 (面会者: Dr. Josef Amann, Managing Director, Vocational Education)

- ① ミュンヘンの職業教育全般の現況を説明いただいた。
 - 1)南部のバイエルン州は、今ドイツで一番経済的に豊かである。職業訓練の予算も伸びていて、ミュンヘン市やバイエルン州でカバーしているプロジェクトが増えている。
 - 2)320種の職業のうち、当ミュンヘン商工会議所で実施している職業学校の修了試験は176種あり、卒業試験の合格証を発行している。ドイツでは、この卒業証書がないと、就職できないシステムになっている。
 - 3)3年間の職業教育プログラムの修了試験は、実技試験、ペーパー試験プラス面接による人間性の資質チェックを行い、卒業後に企業に就職してやっていけるかトータルに判断する。その不合格者は、現在4%だが、ドイツ全体で2%まで不合格者を減らす目標を掲げている。
- ② 日本のニート・フリーターの若者の問題を解決するためのヒントとしてドイツのデュアルシステムおよび生産学校のシステムをヒアリングしたいと伝えてあったので、その一つとして義務教育の終わる14歳から15歳を対象とした夏休みに実施する3.5週間のサマーキャンプの取り組みと内容について話してくれた。
 - 1)そのサマーキャンプは、参加希望者を募集して、希望者は無料で参加できる。定員50名、一人当たり3,500ユーロは、ミュンヘン市が支出。義務教育の修了試験に合格できそうもない基礎学力の低い学生を対象に、バイエルンの森の中で3週間半、いろんな分野(心理学、スポーツ、音楽家、カウンセラー、セラピスト等)の専門家が指導する。リューネンブルク大学の Dr. Carwenka 教授が考案したプログラムで実施して4年目、5か所で実施し、家庭環境が複雑な基礎学力が低く、やる気のない学生が、終了後には見違えるようにやる気を出して勉強に取り組み、義務教育修了試験に97%が合格し、実績を上げているそうだ。
 - 2)読み、書き、そろばんを集中して教え、規則正しい生活をさせる。貧しい家庭や親が離婚して片親など家庭的に問題のある子供たちが、悪い環境から離れてじっくり勉強に取り組める環境

2015年3月27日

慶應義塾大学 政策・メディア研究科
後期博士課程 奥田美都子

を提供。今まで経験できなかった人間性を養う活動（演劇、音楽鑑賞、歌う、絵をかく、水泳、ハイキング等）をさせる。5~6人のグループを作り、ディスカッションさせる。最後に、キャンプの成果として演劇の発表会を行う。（読み、書き、そろばんの基礎力テストも実施）。

3)家庭では、バカ扱いされたり、虐待を受けたり、自尊心を傷つけられた子供たちに、「失敗は恐れるな。むしろ、失敗することはいいこと」と言うことからスタートし、ほめて認める。成功体験をさせることにより自信をもたせることが大切。

4)どんなことでも相談できる専門家を配置し、2人の子供に1人の先生が面倒を見る。先生の資質が重要で、マイスターを持ち、教えることもできる人間性豊かな人を選んでいく。

5)ある意味で徴兵制をカバーするプログラムであり、人間性向上教育、自立教育といえる。生産学校は、1年間だが、午前中のみであり、家に帰れば日常問題があるが、サマーキャンプは家の問題から離れて集中して指導を受けられるメリットあり。終了後も、1年間は担当の先生が1週間に1回グループごとに会ってその後の問題に対応し、やる気を維持させる。



(ミュンヘン商工会議所にて、Dr. Amann と)

③ ドイツでも少子高齢化が問題であり、今後の10年間で80万人の専門的な労働力が不足するとされている（特に、IT分野、病院。）

④ 外国からの移民や難民を受け入れている。トルコ人が今までは多かったが、最近では、ギリシャ、コソボ、シリアからの難民が増えているとのこと、ポーランド、ルーマニア、ブルガリアからの出稼ぎも多い。但し、職業資格がないと就職は難しい。

⑤ ドイツ全体で離婚率が50%、また高齢化、高学歴の女性が出産しなくなっていることも少子化の一因らしい。

3. 職業訓練学校

① パン・菓子製造

残念ながら、校長、担当教員ともにインフルエンザのため会えなかった。校内を見て回り、学生が熱心に菓子作りの実習をしていた。今日は、木曜日の午後だが、ほとんどのクラスは午前中の授業で終わりだったようである。この時期は、インフルエンザが猛威をふるっており、他の訓練学校でも指導員の先生方がインフルエンザにかかり説明のできる人がいないのでアポが取れないという状況が続いていた。ドイツでは、金曜日は正午で仕事終了するらしい。そのため、金曜日はアポが取りにくいそうである。



(職業学校の建物)



(職業学校の入口の前で)



(菓子づくりの実習)



(中庭のパンを焼いている像)



(コンテストで入賞?)

2015年3月27日

慶應義塾大学 政策・メディア研究科
後期博士課程 奥田美都子

②ペインティング(手工業系)

Landeshauptstadt Munchen Berufliches Schulzentrum

Luisenstraße 9, München <http://www.bs-bau-kunst-muenchen.de/bsb/startseite>

事前にアポが確定しなかったので、直接訪問した。校内を見て回っていたところ、4階の教員室から先生が話しかけてくれたので、英語で今回の視察の話をした。学生が訓練している様子や指導している様子、指導法について話を伺いたいと伝えると、これからコースの修了式があるので時間があるなら一緒にどうぞと言われ、同行させていただくことにした。

この学校は4校あり、ペインティング協会に所属。そこで、校長先生からコース修了証を授与された。本コースは、1年終了後に選択コースの一環として習得するコースであるため、やる気のある学生が多いようだ。1学年200人のところ、このコースの受講生は選択コースのため12名と少ないが、それだけ指導員の先生方がマンツーマンで熱心に指導する。修了式後のレセプションでコースがどうだったか学生に聞いてみたところ、楽しく取り組めて、やりがいがあったとのこと。目が輝いていたので、自分の作品にも満足している様子だった。2年生の段階で就職は100%内定しているようだ。1~2日間学校で理論を勉強し、3~4日間はその理論を確かめながら企業で実習する。これが、デュアルシステム訓練のベーシックなパターンだが、業種によっては、繁忙期に集中して企業実習をする、例えば、花屋の場合、繁忙期が10月~クリスマスの12月までなので、この期間はずっと企業実習にあてるらしい。全体の80%が企業実習となるので、学校での座学での勉強は日数的にも少ない。

また、職業学校の先生は、みなマイスターをもっており、中には博士号を取得している先生もいた。日本では、大学に行けない成績の悪い学生が専門学校や職業訓練を受けるイメージがあるが、ドイツの学生はそうではないようだ。少なくとも、このペインティングの職業学校の学生は生き生きとしていたのが印象的だった。



(校長先生の挨拶)



(修了証書授与後に学生(真ん中)と指導教官と記念撮影)



(学生の作品の前で。左から Dr. Jurgen Weber、私、学生、校長先生)



(学生の作品前で)



(職業学校の外観)



(修了式に案内していただいたペインティングの先生。Ms. Brigitte Traub)



(校内を案内していただいた Dr. Jurgen Weber)

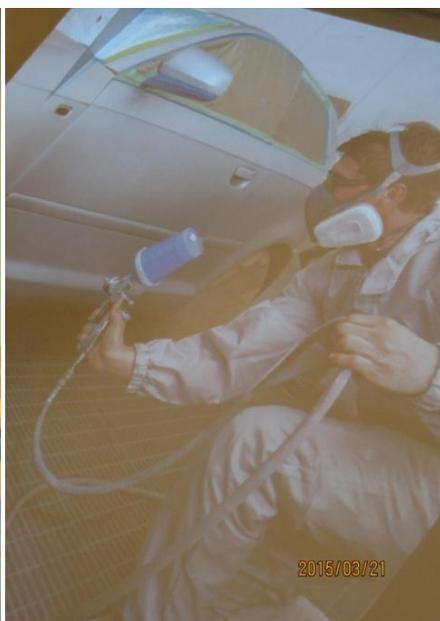


(真中は企業実習担当教官。マイスター)

以下は、夜19時から開催された学生の作品発表会とレセプションの様子。こちらもご招待していただいた。学生と指導教官が一体となって持って取り組んでいる



(学生のペインティングの作品)



(作業中の様子)



(発表会の会場)

③倉庫管理ロジスティック、観光・卸売・貿易事務職（オフィスワーク系）

訪問した時刻が夕方となってしまう、既に学生も教員もほとんど帰宅したあとだったが、建物内を見学した(下左図は校舎全体、下右図は観光コースの教室)。





(学生のコンテナについての調査発表の作品)

4. 生産学校協会（面会者：Mr. Martin Mertens, Vorstand (President)）

ミュンヘンから列車で3時間10分ほどのカッセル駅で生産学校協会会長の Mr. Martin Mertens と面会して話を伺った。

1) 現状

①ドイツには30万人の職業学校の不合格者、中退者がいて、問題になっている。ドイツは、州単位で法律が違い、独自に予算をもち、執行しているが、就職できない、学校にも行かない、職業学校にも行けない、いわゆるニートをカッセル市の青年局が世話をして、労働局が学校を紹介している。その職業学校に不合格となった基礎学力のない学生を引き取って教育指導しているところが「生産学校」であり、1校当たり30人から50人の学生を受け入れている。

②ドイツ全体で150校の生産学校があるが、生産学校協会に所属しているのは、そのうち110校。ミュンヘン市立の生産学校はメンバーではない。ミュンヘン市独自の方法で生産学校を運営しているとのこと。

③生産学校で指導している分野は、主に、農業、レストラン、メタル加工、木工、美容、オンラインショップ、ペインティング、リサイクリング等である。技能を身につけ、職業学校に合格できるように指導、すなわち、企業での実習(訓練の80%を占める)受け入れに合格できるように指導している。

2) 歴史、今までのプロセス

①生産学校は、1800年にフランスで始まり、スイスに伝わり、その後ドイツ南部のバイエルンはバーテンブルグに浸透。同時に、職業学校が発達し、マイスター制につながった。ものづくりは中世からの歴史があり、親方も中世からあった。

②第2次世界大戦後、教育制度の見直しが行われたが、ドイツは、アメリカの教育を受け入れずに、伝統的な親方のマイスター制度を守った。同じ敗戦国でも、ここが日本とドイツの大きな違いとなった。

③1960年代、職業学校の将来の存在価値を定義する動きが高まった。それまでは、理論中

心で、知識中心のキムナジウムの先生と技術中心の職業学校の先生は、お互いに交流がなかったが、その後徐々に交流するようになった。その結果、経済的に余裕のある大企業中心に、企業内に学生を教育する工場を作るようになった。例えば、週1~2日は学校で理論を勉強し、3~4日には企業で働く。

④しかしながら、フォルクスワーゲンなどの大企業内につくられた実習用の工場は、実践的でなく、学生を教育できる社員がいないという問題が起こった。特に、高度な技術の場合はそうだった。

⑤1970年代のオイルショックによる失業者の急増によって、その後デンマークの生産学校が週目された。その生産学校の卒業生は、公的な仕事に就職できるように取り計らい、就職内定率において高い実績をあげたため、デンマーク方式を活用しようという機運が生まれた。

⑥学校を落第した若者と、公立中学校で教えられないはみ出した先生を結び付けたいという発想が生産学校を普及させる一因となった。そして、理論だけでなく、その学生に欠けたマッチした教育を提供しようとした。

3) 今後に向けて

①ニートと生産学校がどのようにやっていくのか?の議論が政治家を巻き込んであった。

ゴールは、学生が自由意思で自立しながらやる気を出すことである。つまり、学校が強制的にやらせる印象が強かったのに対し、生産学校は、決して強制せずに、やりたいから自発的にやるという本人の魅力や可能性を引き出して褒めることにより自信をつけさせることをゴールとした。

②そのため、多くの専門家が対応し、問題のある学生にやる気を出させるにはどうしたらいいかを個別に考えた。

③生産学校は、地域密着である。地域とその地域にある企業と学校が協力して成り立つしくみである。職業学校に入り、デュアルシステムで学校での理論と企業での実践を経験し、卒業試験に合格できなければ、ドイツでは就職できない。社会人として一人前に自立できないのである。

④生産学校の「生産」の意味は、いろいろな意味がある。モノを生産する、生徒をつくる、生徒と先生の間関係をつくる、生徒同士の関係をつくる、学校と企業の信頼関係をつくる・・・

⑤生産学校でつくられたものを実際に販売し、その対価を受け取ることで、自信をつけていくことができる。自分が汗をかいて作ったものを買ってもらえたことは嬉しいし、喜んでもらえたら自信につながる。さらに、アルバイト代をもらえたら一石二鳥。

⑥「ドイツに住む若者は全員能力を引き出す」という哲学(フィロソフィー)がドイツにはあり、法律でも裏付けがある(?)ので、国民全体にどの意識が浸透している。そのため、政府も教育省(日本の文部科学省)と労働を受け入れる企業と労働省(日本の厚生労働省)、青少年の犯罪を取り締まる法務省とが一体となって若者全員の能力を引き出すための施策を立てていて、生産学校にも協力している。ただし、どの省庁も生産学校に対する理解や受け入れなどの考え方が違うことが問題である。(ドイツ全体でニート対策の予算は1兆円(80億ユーロ))

⑦外国からの移民が増加している。特に、コソボ、ポーランドなど。昔はトルコが圧倒的に多かった。これらの移民の子も含めて、生産学校は、すべての若者が職業を準備するための勉強をしなければならない」という哲学(フィロソフィー)のもと取り組んでいる。

⑧経済的に貧しい家庭、親が離婚して片親や、育児放棄された子供など様々だが、愛情が不足している子が多い。その結果、自分に自信がなく、コミュニケーション力のない子が多い。まずは、認

2015年3月27日

慶應義塾大学 政策・メディア研究科
後期博士課程 奥田美都子

められる経験、尊重される経験によって、自信をもたせることが第一である。例えば、いじめる子に怒らないでまず、事実を認め受け入れる、その後「いじめてどうだったか？楽しかった？」と尋ねる、楽しかったと答える子に「同じことをあなたがされたらどう思う？」と聴くことにより、だんだん自己開示してくれる

- ⑨子供たちを認めながら教育指導する教員の教育指導も不可決であり、生産学校協会では、独自の向上教育を定期的実施している。(次は、5月。大串先生参加予定?)
- ⑩一人の先生が、8~10人の生徒を見ている。この先生は、一つの専門分野だけでなく、いろんな分野に精通していることが望まれる。
- ⑪生徒の90%が生産学校でなにをしたいのかに気づく。6ヶ月から3年かかる子もいるが、平均して12カ月から18カ月で卒業する。理想は、2年間。
- ⑫最近うつや精神的に問題を抱える学生が増えているが、その一因として食事に問題がある。朝食を食べない子はイライラしがち。学校で昼食をつくったり、週に1回みんなで朝食を食べることもある。



(真中が Mr. Martin Mertens, Vorstand(President)、右が元生産学校協会会長(前任者))

5. カッセル市の生産学校 (Outlaw) (面会者: Mr. Lamberf Lohet, Teacher)

実際に生産学校を見学したい旨 Martin 会長に伝えたところ、カッセル駅からタクシーで15分ほどの Outlaw という学校を紹介していただいた。ここは、元色鉛筆という名前の生産学校で、会長が設立したが、数年前に経営不振に陥り、Outlaw という法人が引き継いだとのことである。

- ① 木工、メタル(金属加工)、電気(主に配線)、サービス、販売・事務の5コースある。Mr. Lamberf Lohet は、木工の担当教官である。
- ② 外国からの難民が多いため、言葉が通じないことが一番困ったとのことである。木工は、動作によってやって見せることができるのでまだいいのだが、手作業では説明できない事務やサービス担当の教官はもっと大変だと話してくれた。
- ③ 今担当している生徒で、外国からの移民は3名いる。コソボから1名(精神障害あり)、ポーランドから1名(30年前に大工の資格をドイツで取得後帰国したが、大工の職につけずまたドイツで大工の勉強中)、その他東ヨーロッパから1名。
- ④ 本屋からの棚の注文を受け、納品したところ、仕上がりに満足してもらい、リピート注文につな

2015年3月27日

慶應義塾大学 政策・メディア研究科
後期博士課程 奥田美都子

がったらしい。このことが、生徒たちに達成感と自信をもたらしたようだ。

- ⑤ 心がけていることは、生徒とのコミュニケーションである。まずは、人間関係の構築、そのためには、相手を尊重することが大切であり、その結果信頼関係が生まれ、その信頼関係がベースとなって訓練が成り立っていくと話してくれた。
- ⑥ 家で朝食を食べてこない生徒もいる。食事は重要なので、毎週月曜はみんなで朝食をつくって食べる。昼食は持参だが、時々、生徒が作る。
- ⑦ 通常は、7:30~16:00の勤務だが、プロジェクトを複数抱えており、土日に働くこともあるようだ。
- ⑧ 指導教官は、時には父であり、母にもなり、兄弟にもなるとのこと。そういう人間性が生産学校の指導教官には不可欠であることが Mr. Lamberf Lohet からのお話を伺って実感できた。



(木工作业所の前で)

(外国からの移民の生徒に指導中の Mr.Lamberf)

6. ミュンヘン市立生産学校

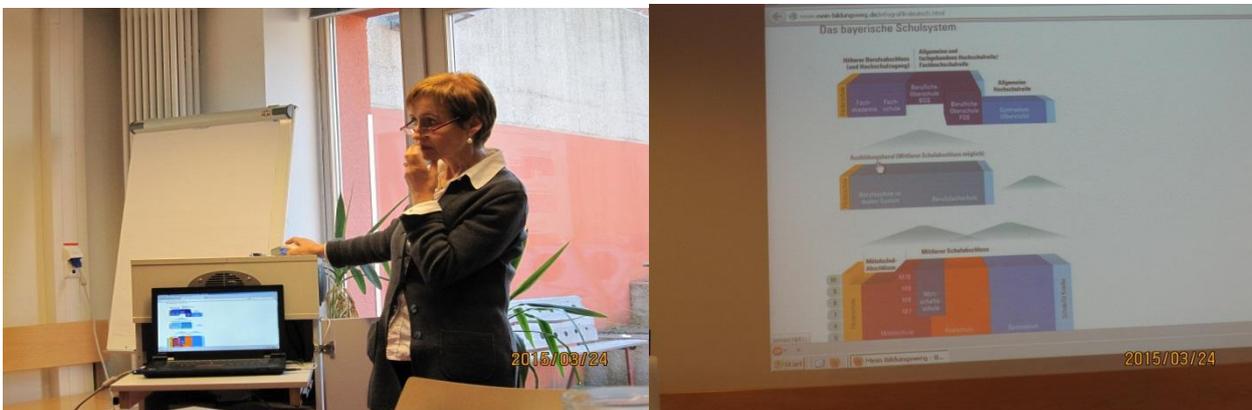
(面会者： Ms. Gertrud von Reuss, Vive Principal(副校長、元貴族)、
Ms. Anette Schreiber, Teacher(料理、ケイタリング担当教官))

インフルエンザの流行のため、教員が多数休んでおり、なかなかアポが取れなかったが、最終日の午前中に訪問することができた。ミュンヘン市はドイツの中で一番経済的に豊かな都市であり、独自に進めているプロジェクトが多いようだ。生産学校についても協会の所属せずに独自に取り組んでいるようだ。

- ① バイエルン州の生産学校は、他と違う。デュアルシステムの一環ではなく、デュアルシステムに入るための職業準備のための職業学校である。
- ② ミュンヘン市には200の職業学校があり、4万から5万人の生徒がいる。特に、電気、木工、金属加工、ホテル、レストランといった分野が多い。
- ③ バイエルン州では、義務教育として10年間学ばなければならない(通常は9年間)。9年生で卒業試験に合格できれば、3年間のデュアルシステムの職業学校に入学できるが、卒業試験に不合格となった生徒は、生産学校で1年間学び、修了証を獲得してからデュアルシステムの職業学校

に入学できる。つまり、義務教育で落ちこぼれた基礎学力の不足した生徒を1年間生産学校で教育指導することにより、職業教育に接続させる学校である。

- ④ 毎週34~35時間の授業がある。クラスは、ドイツ人のためのクラスと移民のためのクラスがあり、前者は1年間だが、後者は、語学のハンディがあることから特別に2年間通うことができる。
- ⑤ 1週間の50%が学校で学び、残りの50%は企業で働く。
- ⑥ やる気のない子供たちのために、部分的に特別授業がある。特に、問題のある生徒は、9週間この生産学校で勉強するが、残りの10か月何もやらない子が多い。本来なら企業で働かなければならない。よって、社会養育家やカウンセラーが3人配置され、マンツーマンで面倒見る。
- ⑦ ミュンヘンの東に分校があるが、ここは難民専門の学校で、家庭的に複雑な子供が多く、親から受けた虐待がトラウマになっている子やうつ病などの精神的に問題を抱える子も多い。そのため、カウンセラーのような社会教育家を3人配置し、さらにスクールカウンセラーのような学校心理学者1名を配置している。
- ⑧ 料理とケイタリングを担当している先生の話では、9月に23人入り、6か月後の3月現在16名に減った。落ちこぼれた子もいれば、他に転校した子もいる。自分の適性が他にあることに気づいて転校したことは悪いことでない。
- ⑨ 1年間の生産学校卒業後にデュアルシステム訓練に入ることができる学生は、去年は80%だった。残りは、就職するためジョブセンターに行った子が多い。デュアルシステム訓練に入るためには、企業との契約を結ぶことが条件であり、企業の要求は高いので、その条件を満たさないと、なかなかデュアルシステム訓練に入れない。いったん、デュアルシステムに入れても、企業が満足しなければ追い出されることもある。企業は、給料を支払って実習するので、学生はそれだけ真剣に取り組むことができる（企業の契約により差はあるようだが、1年目は400から450ユーロ、2年目は500から550ユーロ、3年目は600から700ユーロ毎月給料をもらえる）。
- ⑩ 1年間でいかにやる気を出させるかが肝心である。そのためには、現状を把握するために個別に面談して、自己開示してもらうことが不可欠である。信頼できる大人であると認めなければ生徒たちは本音を語ってくれない。その心を開かせる指導が大切であり、教師は、専門分野の知識プラス心理学プラスソーシャルワーカーとしての専門知識と実績が問われる。
- ⑪ 個別にアプローチして、本年を聴くことにより、生徒それぞれのキーを見つけて、適正な進路を見つけて導いていくことを常にこころがけている



(ミュンヘン市立生産学校の副校長、Ms. Gertrud von Reuss, Vice Principal によるプレゼン)



(左図：調理・ケイタリング担当の Ms. Anette Schreiber のプレゼン／ 右図：校内見学の様子)



(左図：学生の作ったデザートの試食／ 右図：左は校長の Mr. Klaus Seiler)

7. リューネンブルグ大学のサマーキャンプ運営担当者との会食 (Ms. Maren Vobhage-Zehnder)

3月23日カッセルからミュンヘンに戻り、リューネンブルグ大学のサマーキャンプ運営担当者の Ms. Maren Vobhage-Zehnder と会食できたことはラッキーだった。その晩、ちょうど打ち合わせのためミュンヘンに着いたところだった。概要は、3月19日にミュンヘン商工会議所の Dr. Amann との打ち合わせで聞いたとおりだった(2-②参照)が、さらに以下の情報を入手できた。

- ① 2009年にスタートして4年実施し、今年が5年目である。開発した教授の Dr. Carwenka が、70歳と高齢のため、Ms. Maren が代わりに資金集めをしているようだ。現在6 Partner が理解を示して資金援助をしてくれているとのこと。具体的には、化学会社の BSF、ミュンヘン商工会議所、インゴルシュタット商工会議所、ロータリークラブ、銀行のファンドが2つ。
- ② サマーキャンプは、3.5週間と時期が限られているため、現状では5か所で実施することが精一杯で

2015年3月27日

慶應義塾大学 政策・メディア研究科
後期博士課程 奥田美都子

ある。6か所で実施した年もあったが、オーバーワークとなって断念した。教師陣の確保が一番大変である。

- ③ 義務教育が終わる9年生での実施であり、貧しい家庭で、過去に親から虐待等を受けたり、けなされたり大人恐怖症、大人不信が根強い子供が多く、まずは、信頼できる大人もいることを理解させることからスタートする。よって、教師の人选はキーポイントであり、いろんな分野の一流の専門家が指導する。遊びの部分がないと、子供たちは心を開いてくれない。複雑な家庭から切り離して、自然の中の衣食住整った良い環境の中で過ごす経験が重要。
- ④ 問題は、その日のうちにお互いが納得できるまで話し合う。翌日に、しこりを残さないで参加できるようにするため、時には徹夜で話し合うこともある。
- ⑤ 成果が上がっており、関心を示している国もある。ルクセンブルクと打ち合わせ中とのこと。
- ⑥ 5年目となり、今後、どのように進めていくか検討中。そろそろ大学のプロジェクトから会社形態（NPOのような有限会社など）にするか考えている。教授は、現在プレス対応のみかかわっていて、運営はすべて、大学の職員である Ms. Maren がやっている。予算を取り、いろんなところから資金を集めることが大変である。
- ⑦ このサマーキャンプが成功する要件は、以下の通り。
 - 1) 経済力があり、仕事がある都市、スポンサーがいる
 - 2) 大学があり、キャンプ終了後に1週間1回のペースで1年間面倒を見ることができる教員がいること
 - 3) 対象となる義務教育の卒業試験に合格できそうもない落ちこぼれの学生がいる（ミュンヘンは50人定員だが、他の都市では30人定員）
- ⑧ このサマーキャンプ開発プロセスの本がドイツ語だけでなく、英文でもあるはずなので、確認してくださるとのことだったが、まだ連絡が取れてない状況である。



(真中が、Ms. Maren、右が通訳の永谷ベックマン啓子氏)

8. ハローワーク（ミュンヘン雇用庁）

残念ながら、アポは取れなかったが、施設を訪問した。金曜日の午前中に訪問したためか、混雑してなかった。ドイツでは、金曜日は午前中で仕事が終わりで、金曜日にアポを取ることはまずないようだ。



（左がミュンヘン雇用庁の前のサイン、 右が施設内1階の掲示板）

終わりに

今後の方向性として、①生産学校システムと②リューネンブルグ大学の教授の開発したサマーキャンプの開発プロセスとカリキュラムに関心を持った。日本とドイツでは、教育システムが違うので、そのままオリジナルを取り入れてもワークしないと思われるが、就業困難な若者を就業に導くノウハウは参考になるものがあると思われる。また、問題を抱える若者への接し方は生産学校協会会長の話とミュンヘン市立生産学校の副校長及び担当教員の話、さらにはリューネンブルグ大学のサマーキャンプ運営担当者の話が共通していた。家庭環境が複雑でほめられた経験がないやる気のない子供たちを、まずは受け入れて信頼できる大人もいることをわかってもらい心を開かせ、信頼関係を構築した後、達成できたことに対してほめて自信をつけさせることである。

今後のアプローチとして来年度は、継続して以下について調査し、就業困難な若者が就職して自立できる効果的なプログラム開発に役立てたいと考えている。

- ① 生産学校協会が主催している教員教育のための独自の向上研修の内容とカリキュラム（今年の5月とそれ以降数回向上研修が予定されているため、一度参加したい。）
- ② 既に資料を入手した生産学校協会のモジュールシステムの翻訳
- ③ リューネンブルグ大学のサマーキャンプの開発プロセスおよびカリキュラムの英文の入手と翻訳

以上

ドイツ視察旅行 活動報告書

月日	曜日	都市	時間	訪問場所	*面会者	主な活動内容	備考
3月17日	火曜日	羽田空港より出国、ミュンヘン16:55着		(ホテルチェックイン 19:30)			
3月18日	水曜日	ミュンヘン	AM	職業訓練学校の下見		初めての場所のため、通訳なしで3/20に訪問予定の職業訓練学校を中心に住所と場所をチェックし、下見をした。	
			PM	在ミュンヘン日本総領事館	領事 清水祐樹氏	主に、以下の内容についてヒアリング及びアドバイスをいただいた。 ①ミュンヘンおよびドイツ南部のバイエルン州の経済状況全般と日本進出企業、日独関係の現況等についてのヒアリング ②ドイツのデュアルシステム、生産学校についてのヒアリング(今回は、アポを取れなかったが、ミュンヘン手工業会議所も訪問した方がいいとアドバイスをいただいた。) ③職業訓練学校、生産学校見学のアポ取りについてのアドバイス	
3月19日	木曜日	ミュンヘン	AM	ミュンヘン商工会議所	Dr. Jpsef Amann, Managing Director, Vocational Education	9:30のアポ(現地通訳が手配)。ミュンヘンの職業教育全般の現況を説明していただいた。その後、予め、日本におけるニート・フリーターの若者の問題を解決するためのヒントとしてドイツのデュアルシステムおよび生産学校のシステムをヒアリングしたい旨伝えてあったので、義務教育修了試験に合格できない落ちこぼれの中学2年から3年(14歳~15歳)を夏休みに集中して教育指導する3、5週間のサマーキャンプの資料を提供していただいた。やる気のなかった落ちこぼれ生徒が見違えるように変化し、やる気を出して修了できる成功事例のプログラムとのこと。リューネルブルク大学の教授が開発したカリキュラムで、その事務局責任者を紹介していただいた。	通訳あり(永谷ベックマン啓子氏)
			PM	職業訓練学校(パン・菓子製造)	校長	予めお願いしていた現地通訳が以前に訪問したことのあるパン・菓子の製造をしている職業訓練学校を案内してもらった。残念ながら校長は他のアポが入っており、面会できなかった。校内を見て回り、一部調理中の学生の実習風景を見ることができた。	通訳あり(永谷ベックマン啓子氏)
3月20日	金曜日	ミュンヘン	AM	ハローワーク(ミュンヘン雇用庁)	Ms.Kasap	アポは、3/26のところ、急遽変更したため残念ながら外出中で面会できず。Kapuzinerstr. 26, 80337 München http://www.arbeitsagentur.de/web/content/DE/dienststellen/rdb/muenchen/Agentur/index.htm	通訳あり(永谷ベックマン啓子氏)
			PM	職業訓練学校 ①Landeshauptstadt Munchen Berufliches Schulzentrum ②ペインティング協会(ペインティングの職業学校4~5校を統括してる) ③卸売業・自動車販売業職業学校(オフィスワーク系) 職種:自動車販売営業職、倉庫管理ロジスティック、卸売・貿易事務職 Luisenstraße 29, 80333 München http://www.bsgaha.musin.de/ ④上記①の学校の学生の作品発表会レセプション	①Mr. Hans Bauer, Schulleitung/ Ms. Brigitte Traub, Teacher ②Dr. Jurgen Weber, Geschäftsführer/ Mr.Dipl.-Kfm. Uli FaBnacht, Obermeister(President) ④Ms. Margarete Hauser, Teacher	①建設業・手工業職業学校(手工業系) 職種:設計士、大工、左官、石工など Luisenstraße 9, München http://www.bs-bau-kunst-muenchen.de/bsb/startseite メールで訪問依頼を出していたが、事前のアポが正式の取れないまま、校内を見て回っていたところ、先生から声をかけられ、コースの卒業式に連れて行ってくれた。また、夜の生徒の作品発表会レセプションにも招待していただき、やる気のある生き生きとした生徒たちと接することができ、自分たちの作品に自信をもっていることがわかった。	
3月21日	土曜日	ミュンヘン	AM	BMW ミュージアム見学ツアー			
			PM	BMW-Weit見学ツアー			BMW工場内見学ツアーが2週間先まで予約が埋まっており、参加できなかったため、代わりにBMWミュージアムツアーとBMW-WeitTツアーに参加した。この建物は、500億ユーロを投資したようだ。

3月22日	日曜日	ミュンヘン					
3月23日	月曜日	カッセル (ミュンヘン から列車で 3時間15分 ほど)	AM	生産学校協会	<u>Mr. Martin Mertens.</u> Vorstand(President)	生産学校協会の会長と元会長のお二人と、カッセル駅近くのホテルでドイツ全体の生産学校の概要をヒアリングした。	通訳あり(永谷ベックマン啓子氏)
			PM	カッセルの生産学校 Outlaw (元 Buntstift 色鉛筆という意味)	<u>Mr. Lamberf Lohet.</u> Teacher	生産学校協会会長の紹介でアウトロー(Outlaw)という生産学校を訪問し、実習風景を見学し、担当指導員から話を伺った。この施設は、会長が立ち上げた生産学校だが、数年前には破産状態となり、アウトローという法人が引き受けたとのこと。	通訳あり(永谷ベックマン啓子氏)
				リューネンブルク大学、サマーキャンプ運営担当との会食	<u>Ms. Maren Vobhage-Zehnder.</u> Project of Summercamp	3/18に訪問したミュンヘン商工会議所のDr.Amannから紹介されたリューネンブルク大学主催のサマーキャンプ(対象は、14~15歳の中学生)の運営担当者と会食した。学力上卒業が難しい学生対象に、夏休みに3.5週間のサマーキャンプを実施し、終了後は見違えるほどやる気が出て義務教育の卒業試験に97%の学生が合格したという成功プログラムについてヒアリングした。	通訳あり(永谷ベックマン啓子氏)
3月24日	火曜日	ミュンヘン	AM	ミュンヘン市立生産学校 (生産学校協会に未加入。 独自に運営。)	<u>Ms. Gertrud von Reuss.</u> Vive Principal/ <u>Ms. Anette Schreiber.</u> Teacher/ <u>Mr. Klaus Seiler.</u> Principal	ミュンヘン市立生産学校は、生産学校協会に未加盟のため、独自に取り組んでいる。義務教育の卒業試験に不合格だった基礎学力の不足した学生を基本的に1年間受け入れ、修了した学生は、空きのある職業学校に入学できる。移民・難民等の外国人については語学を習得するため2年コースがあるとのこと。その独自の取り組みについてヒアリングした。	通訳あり(椎名智子氏)
		ミュンヘン、 午後出国	PM				
3月25日	水曜日	羽田到着					

*名刺を添付

「バイエルン」インフォ

2015 (平成27) 年1月1日
在ミュンヘン日本国総領事館

1. 一般情報

(1) 人口 (2013年12月31日)

バイエルン州	1,260万人
ミュンヘン市 (2013年12月31日)	147万人
全独	8,077万人

(出典: ドイツ連邦統計庁ホームページ)

(2) 面積 (2013年12月31日)

バイエルン州	7万 550km ²
ミュンヘン市	311km ²
全独	35万 7,340km ²

(出典: ドイツ連邦統計庁ホームページ)

(3) 国内総生産 (2013年)

バイエルン州	国内総生産 (名目GDP)	4,880億ユーロ
	実質経済成長率 (前年比)	3.0%
全独	国内総生産 (名目GDP)	2兆7,376億ユーロ
	実質経済成長率 (前年比)	2.7%

(出典: ドイツ連邦統計庁ホームページ等)

(4) 失業率 (2014年11月)

バイエルン州	3.4%	前年同月	3.5%
ミュンヘン市	4.8%	前年同月	5.0%
全独	6.3%	前年同月	6.5%

(出典: 連邦雇用庁ホームページ)

2. 日本ーバイエルン州関係

(1) バイエルン州内在留邦人数 (2013年10月)

バイエルン州全体:	5,889人
ミュンヘン市:	3,311人
ニュルンベルク市:	242人

(出典: 在ミュンヘン日本国総領事館)

(2) バイエルン州内日系企業数 (2013年10月)

358社	うちミュンヘン市内	約137社
------	-----------	-------

(出典：在ミュンヘン日本国総領事館)

(3) 邦人子女のための教育施設 (2014年4月)

ミュンヘン日本人国際学校	生徒数 168名
ミュンヘン日本語補習授業校	生徒数 202名
ニュルンベルク日本語補習授業校	生徒数 50名

(出典：在ミュンヘン日本国総領事館)

(4) 日本関係団体・機関 (2015年)

ミュンヘン日本人会 (Japan Club München)

(出典：在ミュンヘン日本国総領事館)

(5) 対日貿易 (2013年)

輸出	バイエルン州から日本へ	35億ユーロ	前年比 -2.2%
	全独から日本へ	171億ユーロ	前年比 -0.1%
輸入	日本からバイエルン州へ	29億ユーロ	前年比 -10.9%
	日本から全独へ	195億ユーロ	前年比 -11.0%

(出典—ドイツ：全独統計局ホームページ、バイエルン：バイエルン州統計局)

(6) 直接・間接投資額 (2012年末)

日本からバイエルン州へ	34億4,700万ユーロ
日本から全独へ	164億8,000万ユーロ
バイエルン州から日本へ	28億2,800万ユーロ
全独から日本へ	153億100万ユーロ

(出典—ドイツ連邦銀行)

(7) 日本人観光客の宿泊日数 (2013年)

バイエルン州	43万5,424泊	前年比 -2.2%
ミュンヘン市	19万3,502泊	前年比 -4.0%
全独	130万7,950泊	前年比 -1.3%

(出典：連邦統計局、バイエルン州統計局、ミュンヘン市観光局)

(8) 姉妹都市及び友好関係提携自治体 (2015年)

尼崎市 (兵庫県)	アウクスブルク	1959年4月7日
長浜市 (滋賀県)	アウクスブルク	1959年4月11日
瑞浪市 (岐阜県)	ゼルプ	1966年10月27日
札幌市 (北海道)	ミュンヘン	1972年8月28日
福島県	シュタットベルゲン	1974年9月21日
大津市 (滋賀県)	ヴェルツブルク	1979年2月13日
長崎市 (長崎県)	ヴェルツブルク	2013年4月17日

秋田市（秋田県）	パッサウ	1984年4月8日
入間市（埼玉県）	ヴォルフラーツハウゼン	1987年10月14日
守谷市（茨城県）	マインブルク	1990年11月3日
沼田市（群馬県）	フュッセン	1995年9月29日
長岡市（新潟県）	バンベルク	1995年10月10日
日野町（滋賀県）	ノイシュタット・アン・デア・アイシュ	1997年4月19日
千葉市（千葉県）	ヘルスブルック	1989年
内子町（愛媛県）	ローテンブルク	2001年9月1日
市川市（千葉県）	ローゼンハイム	2004年7月14日

（計16自治体）

（出典：在ミュンヘン日本国総領事館等）

（9）独日協会（全独独日協会連盟加盟協会¹）、その他の独日文化機関（2015年）

全独独日協会連盟加盟協会	
アウクスブルク・シュヴァーベン独日協会	パッサウ独日協会
北バイエルン独日協会（ニュルンベルク）	バンベルク独日協会
シーポルト協会（ヴェルツブルク）	バイエルン独日協会（ミュンヘン）
レーゲンスブルク独日協会	
その他の独日文化機関	
文化、科学、技術に関する日本協会（レーゲンスブルク）	

（計8協会）

（出典：全独独日協会連盟・在ミュンヘン日本国総領事館）

（10）その他の日独関係機関（2015年）

インベスト・イン・ババリア（Invest in Bavaria） 日独産業協会推進委員会（DJW）バイエルン支部 独日法律家協会（DJJV）バイエルン支部 Ifo 経済研究所
--

（出典：在ミュンヘン日本国総領事館等）

（11）大学交流（2014年）

ミュンヘン大学		
同志社大学	福岡女子大学	学習院女子大学
北海道大学	北陸先端科学技術大学院大学	鹿児島大学
国土館大学	京都大学	九州大学
帯広畜産大学	大阪大学	一橋大学
立命館大学	滋賀大学	駿河台大学
大正大学	東京大学	筑波大学
早稲田大学	中央大学	埼玉大学
神戸市外国語大学		

¹ 全独：45協会

ミュンヘン工科大学		
九州大学 大阪大学 東京大学 東北大学	京都大学 香川大学 山梨大学 慶応大学	名古屋大学 東京工業大学 北海道大学
ミュンヘン音楽大学		
洗足学園大学	東京芸術大学	
International School of Management (ミュンヘン他)		
桃山学院大学	立命館アジア太平洋大学	
アウクスブルク大学		
千葉大学 大阪大学 名城大学	滋賀県立大学 早稲田大学	関西学院大学 一橋大学
バンベルク大学		
関西外国語大学 南山大学	山梨学院大学	明治大学
バイロイト大学		
学習院大学	筑波大学	
アウクスブルク応用学術専門大学		
崇城大学	大阪大学	筑波大学
デッゲンドルフ応用学術専門大学		
関西外国語大学		
アイヒシュテット・インゴルシュタット・カトリック大学		
長崎純心大学		
ケンプテン応用学術専門大学		
横浜商科大学		
エアランゲン・ニュルンベルク大学		
大阪教育大学 関西学院大学 関西大学 東京工業大学 山形大学 成城大学 女子美術大学	京都大学 東北大学 東京外国語大学 三重大学 山口大学 東京大学	京都教育大学 大阪大学 東京学芸大学 宇都宮大学 名古屋工業大学 旭川工業高等専門学校
ニュルンベルク工科専門大学		
上智大学		
パッサウ大学		
京都産業大学	武蔵大学	明星大学
レーゲンスブルク大学		
金沢大学	名古屋大学	東北大学
東バイエルン・レーゲンスブルク工科専門大学		
東京工業大学		
ヴェルツブルク大学		
大阪産業大学	中央大学	立命館大学

大阪大学 上智大学	東京大学	星薬科大学
ヴュルツブルク・シュヴァインフルト専門大学		
文化学園大学		

(計 91 大学) (出典：ドイツ大学学長会議ホームページ)

(1 2) 友好関係提携文化機関 (2015 年)

シーボルト博物館 (ヴュルツブルク) — シーボルト記念博物館 (長崎)

(出典：在ミュンヘン日本国総領事館)

(1 3) 経済分野における日本との協力関係 (2015 年)

滋賀県とバイエルン州環境省との間の環境相互協定 (2003 年 11 月)

(出典：在ミュンヘン日本国総領事館)

(1 4) 日本学科のある総合大学 (2015 年)

ミュンヘン大学	エアランゲン・ニュルンベルク大学
---------	------------------

(計 2 大学)

(出典：ドイツ大学学長会議ホームページ、在ミュンヘン日本国総領事館)

(1 5) 日本語講座のある大学 (2014 年)

ミュンヘン工科大学	ミュンヘン連邦軍大学
アウクスブルク大学	バイロイト大学
レーゲンスブルク大学	アイヒシュテット・インゴルシュタット大学

(計 6 大学)

(出典：在ミュンヘン日本国総領事館)

(1 6) 日本語講座のある専門大学 (2014 年)

ミュンヘン専門大学	ニュルンベルク専門大学
ヴュルツブルク・シュヴァインフルト専門大学	

(計 3 大学)

(出典：在ミュンヘン日本国総領事館)

(1 7) 日本語授業を行っているギムナジウム (中・高等学校) (2015 年)

ミュンヘン	マクシミリアンス・ギムナジウム
ディリンゲン	ヨハン・ミヒャエル・ザイラー・ギムナジウム
グラーフینگ	ギムナジウム・グラーフینگ
オーバーハッヒング	ギムナジウム・オーバーハッヒング
レーゲンスブルク	アルベルトウス・マグヌス・ギムナジウム
シュヴァインフルト	バイエルン・コレーグ
ファイツヘッヒハイム	ギムナジウム・ファイツヘッヒハイム
ヴュルツブルク	シーボルト・ギムナジウム

(計 8 校) (出典：バイエルン州教育省、在ミュンヘン日本国総領事館)

(18) 日本語講座のある市民大学 (Volkshochschule) (2014年)

アンベルク	アンスバッハ	アシャッフエンブルク
アウクスブルク市	バンベルク市	バートロイト市
ブルクハウゼン・ブルクキルヒエン	カム	キームゼー
ヨーブルク	ダッハウ	デッゲンドルフ
ドナウヴェルト	エアランゲン	フライジング
フルステンフェルトブルク	ゲルメリング	ギルヒング
グラーベントゥエル	ハール	ホーフ郡
インゴルシュタット	カウフホーレン	ケンプテン
リヒテンフェルス郡	リンダウ	マインブルク
メミンゲン	ミュンヘン北 (ウンター・シュライスハイム)	ミュンヘン南東 (オットーブルン、ノイバベルク)
ミュンヘン	ノイマルクト (オーバー・フアルツ)	ネルトリンゲン
ニュルンベルク	オーバーハッヒング	オルヒング
パッサウ	プッフハイム	プラーハ
レーゲンスブルク市	ローゼンハイム	シュヴァーバツハ
シュヴァーントルフ	シュヴァインフルト	シュタルンベルク湖
タウフキルヒエン	トラウンロイト	トラウンシュタイン
フアーターシュテッテン	ヴァルトクライフブルク	ヴァイルハイム
ヴェルツブルク		

(計52市民大学)

(出典：在ミュンヘン日本国総領事館)

(以上)